



学校だより

〈特別号〉

R3. 9. 15 (水)

やる気をだして学ぶ子 がまん強く続ける子 みとめ合って力を合わせる子



「岡山県学力・学習状況調査」 「全国学力・学習状況調査」の結果から

5月27日に実施された「岡山県学力・学習状況調査」(3～5年生)「全国学力・学習状況調査」(6年生)の結果が公表されました。

担任が、学年の傾向と今後どのような学習・取組が必要かを学級で話し、個人票を一人一人に返却しました。校内でも結果分析を行い、今後の取組について話し合いました。

ご家庭でも個人票を見ていただくと共に、結果分析を参考にいただき、児童の今後のやる気や励みにつながる声掛け等をよろしくお願いいたします。

《 県・全国調査の目的 》

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県下及び全国的な視点で、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析して今後の指導に役立てる。

調査結果に基づき、個々の児童生徒が自らの学習等の改善に役立てる。

全国・県平均を上回っている学習内容

- 国・前学年で習う漢字を正しく読む。
 - 物語の内容の大体を読み取る。
 - 自分の考えを明確にして文章を書く。
- 算・基本的な四則計算(+)、(-)、(×)、(÷)
 - 図形領域
 - グラフからの読み取りなどデータを活用する力
 - 全ての領域における活用能力

全国・県平均を下回っている学習内容

- 国・前学年で習う漢字を正しく書く。
 - 説明文の内容を読み取る。特に、情報と情報との関係を理解し、文中の中心となる語や文を捉えたり、内容を簡潔にまとめたりすること。
 - 情報を整理して文章を書く。
- 算・大きな数、分数、小数の表し方やその数が表す意味の理解
 - 線分図など図の表す意味

※ 時間内に設問の最後まで取り組めていない。

《 本校の学力の結果・分析 》

- 国語では、日常的に行われる音読や読書活動などを通じて文章を読んだり、内容を理解したり、自分の思いを持ったりすることはできる。
しかし、漢字の使用が日頃からできておらず、その定着が十分図られていない。また、文章が書き表している内容を文中の言葉から客観的に捉え、的確(簡潔)にまとめることができにくい。
内容の大体を理解したり自分の考え(主観)を持ったりすることはできるが、論理的・客観的に考えを進めたり要約したりすることが苦手である。
- 算数では、基本的な計算技能や図形の基本的な知識理解をはじめとして全領域において学習内容が身に付き、活用能力も昨年より伸びている。
しかし、小数や分数が表す意味や式と図の関係などが曖昧になっているところがある。

《 今後の取組 》

- 国語の授業で、重要な文や語句を捉えたり要約したりすることを丁寧に扱う。
- 授業の「まとめ」や「ふり返り」で、字数制限等の条件を付けて記述させる。
- 学校での「読書の時間」の充実、家庭でも読書をすすめ、文章(活字)を読む機会に多く触れることで思考力・表現力など様々な力を付ける。
- 補充学習で類似問題等に取り組みせ、読み取りの仕方や条件文の書き方を指導する。
- 習った漢字は、日ごろから使うようにし、日常生活を通じて定着を図る。
- 誤字脱字、主語と述語の関係、内容が伝わる文章かなど、文章を書いたら必ず見直す習慣を付ける。
- 家庭学習の充実(学年で決まっている学習時間の定着、共通課題は必ず取り組む、自主学習のすすめ等)

《 学習状況の調査から 》

- ほとんどに児童が、将来の夢を持っていたり、自分の良さを感じている。
- 住んでいる地域が好きだけど、地域や社会をよくするために何をしたらいいかなどを考えるとあまりない。
- 国語の授業内容より算数の授業内容の方がよく分かると感じている。
- テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールをあまり決めていない。
- 平日、携帯ゲームやインターネット等メディアの使用時間は、1時間以上3時間以内である。

ほとんどの児童が、「こんなふうになりたい」と将来の夢をもっており、自分の存在を肯定的に捉えることができています。引き続き、児童が夢を持ち、自らに自信を持って学んでいくことができるよう取り組んでいきます。

情報化が加速的に進む現代社会、メディアとの付き合い方(メディアコントロール)については、全国的に課題です。学校では、情報モラル教育を進めます。PTA教育講演会でも「スマホ・ケータイの安全な使い方」の講演があります。学校・家庭と連携して児童が、「よりよい使い手」となるよう取り組んでいきたいと思っております。ご協力よろしくお願いたします。

